

# みんなでつながろう！こころと笑顔

吉田より子

【推進員認定期】第5期

【所属】三障がい混合サークル「ヒッキーハート」(視覚障がい者)【活動エリア】嵐山町、東松山市他

学習対象者	小学生(4年生) 中学生 高校生 住民 その他( )
内 容	障がい理解(車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他(講話、ゲーム)) 高齢者理解(高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他( )) その他の理解( )
所用時間	1回あたりの時数：90分(講話45分+体験45分)
ねらい	人はお互い様の気持ちで支えあって助け合って生きているのだという事を、人が人として、自分らしく生きていく力を育てていくという思いと、人が元気に笑顔で生きていくには、人と関わってこそなのだということを、講話と体験を通して感じてもらいたい。

## はじめに

私は、急激に見えなくなり始め、全盲になって3年になる。仕事を辞してからの9年間の実生活での体験、失敗、その時々悔しさ、みじめさ、嬉しさ、喜びなどを通して、今の私があるということ、福祉教育を通じて伝えていきたいと思っている。

## 実践内容

### 1 講話(45分)

- ・見えなくなったの生活の中での失敗や喜びなどのエピソードを通して、今の私があるということ。
- ・自分を認め受け入れて、好きになって、心豊かに笑顔で生活していること。

### 2 体験(45分)

次の2つの体験うち、1つを選択して行う。(詳しいプログラム内容は、別添計画書参照)

#### 【一緒に歩いて色々さわって、一人で歩いて】

- ・生徒をガイド者とアイマスク体験者のペアにする。
- ・5mのコースの中間まではペアで歩き、中間地点に置いてある野菜や果物が入った箱の中から、ガイドが指示したものを手探りで選ぶ。
- ・ゴールまではガイド無しで一人で、障害物の机をよけながら、ガイドの声の誘導を聞いて歩く。

## 【じゃんけん列車】

- ・じゃんけんをし、負けた人が勝った人の後ろにつき、列車のように1列を長くするゲームの応用。
- ・ルールを変え、2回行う。

### (1) 1回目

全員が見えている状態で行う。

### (2) 2回目

全員がアイマスクをして、見えない状態で行う。

## ここがポイント！

・授業は必ず、講話と体験の組み合わせで行っている。体験だけを依頼する学校もあるが、その時は、学年担当の先生と打ち合わせの上、講話も加えてもらう。その必要性をきちんと話すこと。

### 【講話について】

・視覚障害の色々（全盲・弱視・先天性・後天性・見え方の色々・点字を使う人、使わない人など）について説明をする。そして、「私の場合はどうか？」という事と、「視覚以外のほかの感覚を全てつかっての生活」など、生活の工夫と気持ちなどを伝える。

・できない事を数えるのではなく、「これもできる。あれも。まだ出来る・・・」など、できる事を数えていくことを通して、勇気やあきらめないことの大切さを伝える。

・できなければ人をお願いする。甘える勇気も必要だ。そのためには、自分を大切に思ってくれる友人・両親・家族・先生に素直に正直に話すことが大切。その勇気も必要だ。これらの伝えたい思いを、これまでの私の実生活からのエピソード（失敗談、悔しい、悲しい、嬉しい、喜びなどの）を入れながら話す。

### 【体験について】

・体験だけで終わらせるということは避けたい。学校によっては、先生と生徒だけで『アイマスクとガイド体験』をやってしまうことがある。するとどうなるか？子供たちの感想には決まって「怖かった、大変、不安」などのマイナスイメージだけを植えつけてしまうのだ。ましてや、現在は、小学四年生に対しては、この体験は私たちのサークルではやってない。『見えないって？見えなくても・・・。声かけがあれば・・・。』という事をベースに体験プログラムを考えている。

## 成果と課題

### 【生徒の感想より】

見えなくても普通に生活できるんだとわかった。勇気を出すって大事なんだ。一緒に歩くと安心。僕も勇気を持って声をかけようと思う。声をかけてもらうと安心と言う事がわかった。

### 【成果】

町で、授業に関わった親子や、進級した子供達からの声かけがあったり、その母親に「子供から授業の話の話を聞きました。」と感謝の言葉を頂くと、授業の成果を感じ、嬉しく思う。

# 視覚障がい体験プログラム 計画書

講話（４５分）＋体験（４５分）を組み合わせで行う。体験は、次の２つの体験の中から１つを選び行う。

## 体験１ 「一緒に歩いて色々さわって、一人で歩いて」

### 【ねらい】

- ・ガイドが一緒の時の安心感に気づく。（「一緒に歩く」体験）
- ・視覚以外の感覚（触ってみる、探し当てるなど）の大切さに気づく。（「色々さわって（野菜）」体験）
- ・声をかけてもらい、誘導してもらえば歩けることや、自分の耳を頼りに集中力の大切さに気づく。（「一人で歩いて」体験）
- ・誘導する側の言葉の表現方法や、相手の身になって考える大切さに気づく。（「一人で歩いて」体験）

### 【準備】

- ・用意するもの：アイマスク（生徒の人数分）・机５こ・椅子２脚・ダンボール箱１・野菜と果物 10 個ぐらい
- ・生徒同士でペアを作っておく（アイマスクをつける人と、ガイドする人の役割分担も）生徒 20 人なら 10 組のペアができる。
- ・体験するコースづくり（1本 5 m の動線）  
スタート地点に椅子を 1 つ、5 m 先のゴール地点に椅子を 1 つ置く。中間地点に机 1 台を置き、その上に野菜と果物を入れた段ボール箱を置く。スタート地点から中間地点までの間に机 2 台、中間地点からゴール地点までにも机 2 台を置き、障害物をつくる。

### 【体験方法】

#### 《 一緒に歩いて色々さわって》

ガイド者とアイマスク体験者のペアでスタートし、机 2 台の障害物を右、左とジグザグに避けながら、中間地点の野菜 BOX まで歩く。そして、ガイド者が「人参を探してね」と言って、ゴールに先回りしておく。アイマスク体験者は、そのガイドに向かって探し当てた人参をかざし、確認してもらう。当たるまで行う。

#### 《 一人で歩いて》

野菜は箱に戻し、ゴールまで一人で歩く。その際に、ガイド者が声で誘導する。障害物の机を上手に使用しながら「真っ直ぐね。そこから、右に 2 歩あるいて、机を触りながら、左に曲がったら、そのまま真っ直ぐにあるいてきてね。まだ、まっすぐだよ。」というように。ガイドがいるゴールまで来て、二人でタッチしてゴール。その繰り返しを、ガイドの交代をしながら、全員が体験をする。

## 体験2 「じゃんけん列車」

### 【ねらい】

・ジャンケン、声を掛け合いながら、口じゃんけんや、相手の手をさわってやるじゃんけんなど、工夫を考える大切さに気づく。

・見える人が見えない人を誘導し、楽しみながら列車が大きくなっていくことで、助け合い、支えあいの気持ちを感じることができる。

・立場の違う人とでも一緒に遊べるよ。楽しめるよ。仲間だよ。などの気持ちを感じることができる。

### 【体験方法】

子供たちが普段からやっている遊びの「ジャンケン列車ゲーム（負けた人が勝った人の後ろについていき、列車のように列が長くなる）」を応用する。2回行う。

#### 《1回目》

全員が、見えている状態で行う。

#### 《2回目》

全員がアイマスクをして、見えない状態で行う。

まず、全員が手をつないで輪になる（私も入る）。

次に、私を起点として、私が右となりの生徒とジャンケンをする。そして、次の生徒も右隣の人と、というようにして、生徒の数が足りないときは、先生にも入ってもらって全員がジャンケンをできるようにする。ルールとして、勝った人が、負けた人の後ろにつく。そしてまた、次のジャンケン相手を探し、ジャンケンをしていき、最後は1本の列車になる。最後は、最初のように、全員が手をつないで、一つの輪になりゲーム終了となる。

### 【留意点】

・1回目の見えている時は早くできるが、2回目の見えていない時は、やはり時間がかかる。勝った人はアイマスクをはずし、負けた見えていない人の後ろにつく。そして、先頭の見えていない人を誘導しながらジャンケン相手を探して、次の対戦者とジャンケンするようにする。上手に誘導できれば、ゲームはスムーズにいくのだが、なかなか時間がかかるチームもある。生徒の人数が20人から30人であれば、30分前後で終了する。

・その後は、輪（円）になった状態で全員が床に座る。そこで、講話と体験との全体の振り返りをする。質問・感想などを言ってもらおう。